

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北陸)	◎	－	－	－
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・インバウンドの観光需要が非常に旺盛で、売上が大幅に増加している。今月の免税売上の取引件数は前年同月比約4割増しで、売上金額は約57%増加と大きく伸長した。特に米国や台湾からのインバウンドが目立っており、免税客単価も約1.9万円へと上昇している。この好調なインバウンド効果が寄与し、店舗全体の売上も前年同期比で約45%増加と極めて堅調に推移しており、既に前月の月間総売上を上回る勢いである。
	○	コンビニ（店舗管理）	単価の動き	・県内で宿泊した旅行者に対して、土産物店や飲食店等で利用できるデジタル地域通貨や紙クーポンでキャッシュバックするという県独自の企画が特需を生み出しており、週末の来客数と客単価が大幅に伸びている。
	○	乗用車販売店（経理）	販売量の動き	・環境性能割廃止の影響や新型車登場の効果等により、やや上向きである。
	○	住関連専門店（役員）	単価の動き	・販売数量は前年並みだが、値上げにより単価が上昇しており、全体の金額は増加傾向である。
	○	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・企業研修や学会などの団体予約が好調で、前年の稼働率を上回っている。
	○	タクシー運転手	単価の動き	・5月末のタクシー運賃の改定により運賃が16%上昇し、売上金額は上がるようになった。一方、客は節約してタクシー利用を控えたり、夜の繁華街へ出掛ける回数を減らしたりする傾向がみられる。
	○	競輪場（職員）	販売量の動き	・一時期は売上が低迷していたが、消費税減税実施等の見通しにより好感感が回復し、それに伴って売上も回復している。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・前年ほど気温が上がっていないことにより、洋服店では真夏仕様の商品の売上が今一つである。今月中旬に新たに開店した飲食店が来街者の関心を集めており、その効果が少しでも商店街のにぎわいにつながってほしいと考えている。
	□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・今年の6月は前年と比べて日曜日が1日少なく、かつ、働き方改革により当店の休業日を新たに1日設けたことで、平日の営業日も1日少ないというマイナスの条件下での営業となった。月を通して曜日回りのマイナス面を補うことはできなかったものの、前年の外商部門における大口売上の実績分をカバーすることができず、前年売上を割り込む見込みである。
	□	スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・来客数に大きな変化はない。特にイベント日に集客が伸びているため、客は価格にやや敏感になっている様子である。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数は減少の一途をたどっており、前年比で8%程度減っている。売上は前年の99%で、商品単価の上昇を主要因として維持している。コンビニの販売価格が年々大幅に上昇しているため客の負担が大きくなっており、200円以上するおにぎりに驚きや残念がる声を多数聞く。販売単価は本部やメーカーが決めており、コンビニ加盟店がどうにかできることではないものの、来客数や来店頻度の減少が続き、大変不安である。
	□	コンビニ（店長）	単価の動き	・本部主導の大型キャンペーンやセールによって、今月は集客に成功している。キャンペーン以外の商品を手取る客もみられ、売上の全体的な底上げに貢献している。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価の上昇が続いている。今月は比較的気候が穏やかで、暑かった前月に来店しなかった客による購買がみられる。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・節約志向が強く、なかなか売上の向上につなげられない。

□	家電量販店（店長）	販売量の動き	・省エネ基準改定前の需要の高まりから、前月のエアコン販売数が増加し、その反動で今月は伸び悩んでいる。
□	家電量販店（本部）	販売量の動き	・ほぼ前年並みの動きとなっており、景気が良くなっているとはいえない。しかし、前年は新作ゲーム機で特需も存在したことから、前年並みでも底上げはされている。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車と中古車の販売量がなかなか増えない状況が続いている。購入に対して慎重な客の様子は変わらない。
□	乗用車販売店（総務担当）	単価の動き	・物価上昇に伴い、部材費や車両単価も上昇傾向である。数量の伸び悩みに対して、単価の高止まりにより、売上は一定水準を保っている。
□	その他小売 〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・商品価格の上昇がみられるなかで客の節約志向は一層増しており、生活必需品ではない商品カテゴリ、特に衣料品の落ち込みが大きい。一方で、自社の設備投資によって来客数は増加しており、消費の落ち込みをカバーする形となっている。
□	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・6月は県の観光支援策があり、今月に入ってから予約が増え、売上が伸びている。
□	観光型旅館（経理）	来客数の動き	・被災した当温泉地での宿泊客数は増えつつあるが、工事関係者数が減っており、全体の増減は変わらない。
□	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門はインバウンドを中心に堅調に推移している。それに伴いレストラン部門も堅調である。宴会部門は苦戦している。
□	通信会社（職員）	お客様の様子	・問合せ内容に変化がみられない。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・通信、放送サービス共に獲得契約数は前年同期並みだが、解約数は引き続き前年を少し上回って推移している。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・売上や来客数の減少傾向はここ半年以上続いており、今月も変わっていない。
□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月は新規分譲地の販売が開始となり、契約が進んでいる。今後は建築も進み、売上も増えるとみている。
▲	一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・デイリー商品の販売量は横ばいだが、ギフト受注が減っているため、売上が落ちている。
▲	一般小売店〔事務用品〕（店長）	販売量の動き	・高額商品の動きが悪い。客は本当に必要な商品だけを購入している。
▲	一般小売店〔鮮魚〕（経営全般）	販売量の動き	・6月は売上が落ち込む時期ではあるが、3か月前より明らかに売れなくなっており、現場の空気が重い。相次ぐ値上げにより、し好性の高い商品への支出が急速に減っており、財布のひもが完全に締まっている状況である。
▲	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・気温の影響もあるが、夏商戦の5月以降、高収益の衣料品がカジュアル、ビジネス共に大変苦戦している。気温上昇に伴い、夏のカットソーなど半袖物の売れ行きが良くなることを期待したが、販売は少ない。父の日もほとんど動きがない。セールに期待したが、初動は苦戦している。一方、靴やバッグなどの周辺雑貨や化粧品は、衣料品ほど低迷していない。
▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・特売品の動きが良くなっており、客の節約志向がみられる。
▲	スーパー（役員）	来客数の動き	・食品に関しては節約志向が継続している。消耗資材など各メーカーの値上げにより、1品単価は上がり続ける見込みである。加工食品の値上げの影響により、購買点数の減少だけでなく、牛肉から豚肉、鶏肉へのシフトなど購買商品の変化も顕著になっている。
▲	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・物価高や石油関連資材の高騰により、企業業績に悪影響が出ており、旅行を中止にする企業が出始めている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・乗客数が減っている。タクシーはぜいたくという声もあり、利用を控える動きが増えている。

	▲	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・イベントの集客率や問合せ数が低下している。建物価格の高騰に加え、金利上昇などの影響が大きいとみている。
	▲	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・中東情勢により、建築資材の不足や価格高騰が住宅価格にも影響を与える。
	▲	住宅販売会社 (営業)	お客様の様子	・価格高騰の影響により、これまで競合になりえなかった低価格帯の会社との競争が増えている。
	×	商店街(代表者)	競争相手の様子	・衣料品は例年なら7月から夏のバーゲンセールが始まるが、今年は6月中旬頃から始まっている。中小の小売店なら理解できるが、大型店やブランドショップも夏に入る前にバーゲンセールを行うという異常事態が最近では普通になりつつある。
	×	一般小売店〔書籍〕 (従業員)	来客数の動き	・今月は今までになく来客数の落ち込みがひどい。各種の値上がりや原材料不足など多くの要因がある。
	×	衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・化学繊維の原料不足の影響か、商品の在庫量が少なく売上げアップにつながらない。
	×	その他専門店〔酒〕 (経営者)	販売量の動き	・世の中の全てで値上げが止まらなくなっており、消費者の財布のひもは固い。今年のお中元シーズンもどうなるか心配でならない。
	×	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・国内旅行の来客数が前年と比べて減っている。団体客、グループ客、個人客を問わず同じ傾向である。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	プラスチック製品製造業(広報)	受注量や販売量の動き	・ナフサ不足の最悪な状況は脱したとみている。
	○	金属製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・客の調達不安による需要が発生している。
	○	電気機械器具製造業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・車載関係の受注が順調である。また、産業機器関係の動きも出ており、量産品に関しては良くなってきている。
	○	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・商談で訪れる飲食店街での人出が多くなっている。
	○	輸送業(経理)	取引先の様子	・売上は伸びている。軽油の価格次第では更に伸びる。
	□	化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注量は変わらず推移している。
	□	輸送業(管理会計担当)	受注量や販売量の動き	・企業間物流の物量に大きな変化はない。
	□	不動産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・同業者の話では、これから少し動きが出ると聞いている。
	□	司法書士	取引先の様子	・6月末、7月末での会社解散依頼が多数あるが、全て事業承継者不在の黒字解散であり、業績が悪いわけではない。
	□	税理士(所長)	取引先の様子	・人手不足と、中東情勢の影響により物資が入ってこないことからどの業種も滞留が発生しているが、まだストックや預金残でまわしている。
	▲	食料品製造業(経営企画)	受注量や販売量の動き	・能登半島地震から2年半、いまだ被災前の売上を下回り続けている。さらに、最近の中東情勢による様々なコストアップが追い討ちとなり、非常に厳しい状況である。
	▲	繊維工業(総括)	受注価格や販売価格の動き	・中東情勢の影響により、主原料である石油由来の糸や燃料油などあらゆる原材料価格が高騰し続けており、全てを価格転嫁することは困難である。
	▲	金融業(融資担当)	取引先の様子	・中東情勢の影響により、燃料を中心とする原材料価格が高騰している。このことを要因とする販売価格への転嫁は、時勢から比較的理解を得られやすいものの、原材料が不足する事態も発生しており、販売できない懸念も増えている。
×	—	—	—	
雇用 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	*	*	*
	□	人材派遣会社(営業)	求人数の動き	・中東情勢等の影響が続いており、3か月前と比較して求人に変化はない。

□	新聞社 [求人広告] (営業)	それ以外	・新聞広告の出稿状況を見ると、短期間では増加も減少もなく、どちらかの傾向にあるとはいえない。ただし、中長期的には減少傾向にあり、これは景気ではなく新聞広告の需要の問題だと考える。
□	民間職業紹介機関 (経営者)	求人数の動き	・新規案件が少ない。中小企業における求人の動きに変わりはなく、人が集まらない状況である。求職者には年配者が多く、求人企業とのマッチング成立が難しい。
▲	人材派遣会社 (役員)	採用者数の動き	・3か月前と比べて派遣しているスタッフが数名減っている。
▲	学校 [大学] (就職担当)	周辺企業の様子	・求人依頼に来る企業から、依然として原材料費や燃料費が高騰し、調達が困難な状況が続いていると聞く。
×	—	—	—